

次世代育成支援行動計画に対する市民意見集約

- N o 1 ① J R 長岡京駅前保育施設について
② 延長保育の充実について
- N o 2 ③ 子どもの安全確保について
- N o 3 ④ いつでも気軽に親子で利用できる児童館のような施設整備について
- N o 4 ⑤ 児童館の整備について
- N o 5 ⑥ 悩みや不安を話し合える仲間とのふれあいの場所の整備について
⑦ 子育て講座の開催とボランティア活動の参加について
⑧ 子育て中の母親のリフレッシュできる場の整備について
- N o 6 ⑨ 多様な保育サービス（休日、病児、延長、乳児）の充実について
⑩ 保育料の軽減について
- N o 7 ⑪ 思春期教育における各種学習会等の施策の充実について
⑫ 自らの安全を子ども自身が身につける学習機会の開催について
⑬ 子育ての経済的負担の軽減と学力向上のための学校教育の充実について
⑭ 児童館のようないつでも気軽につどえる子育て拠点づくりについて
- N o 8 ⑮ 保育施設の整備について
⑯ 子どもの居場所づくりの整備について
⑰ 子育て支援センターのような子育て支援としての相談機能の充実について
⑱ 児童館利用の拡大について
⑲ 児童にかかる安全対策の取り組みの P R について
⑳ 地域文庫のような既存資源の活用と P R について
㉑ 不登校児対策としての啓発活動の充実について
- N o 9 ㉒ 子育てを親自らの手で行える社会の構築について
㉓ 幼児期からの集団教育の充実について
㉔ 児童館の利用拡大について
㉕ 誰もが利用しやすい公園について
㉖ 地域子育て支援センターの運営について
㉗ 子育てと仕事が両立できる職場環境等の整備について
- N o 10 ㉘ 児童館の設置について
㉙ 乳幼児医療費助成の充実について

次世代育成支援行動計画に対する市民意見

№1（平成17年1月24日受理）

長岡京で子育てをしています。

まだ子どもは保育所世代なので保育所について意見を述べさせていただきます。

児童福祉法において、保育の実施主体は市町村と明記されていますが今回、JR 駅前に出来ます保育所は認可外保育所というのは、市としての姿勢がおかしいと思います。

財政上の苦肉の策かとは思いますが認可外は、補助金がないため、やはり経営上大変ですし、保育の質を維持するのはなかなか困難です。

保育所があればいいという問題ではないと思います。

公共公益棟で実施する保育ならば今後、駅前保育所の指導監督を京都府と共にしっかりしていただきたいと思います。

また、周辺市町村は、延長保育が充実していますが長岡京市は新田・開田の2園のみというのは、やはり少な過ぎるように思います。大山崎や向日市であっても公立園で延長保育を頑張っていますし、パート雇用の工夫でやっていけると思います。

民営化についても賛否両論あるかと思いますが長岡京市は公立が多いためにいろんなニーズに対応出来ないぐらいなら民営化も考えて欲しいと思います。

№2（平成17年1月26日受理）

私が是非お願いしたいのは、「安全の確保」です。

交通安全はもちろんですが、今、問題になっている不審者による被害から子ども達をどう守っていくかという事です。

現状では「親がわが子を守るしかない」という状態なので、安心して子どもを一人で外に出す事すら出来ません。朝、学校に出かけて行って帰って来るまで毎日不安です。子ども達が事故に合わない様に防衛知識をしっかり学校で教育して頂く事と、登下校時の監視（地域で協力して出来るだけ隙間なく見守りが出来るように、ボランティアを募るなど市からの働きかけ）、学校（幼稚園も含む）の安全の確保（校門にガードマンを配置する等）、「これでもか」という位の対策をして頂けたらと思います。

№3（平成17年2月2日受理）

○私は、2歳の男の子の母親です。

是非、長岡京市に就園前の子ども達とその親が自由に利用できる児童館を作って欲しいと思い書かせて頂きます。

○「新・健やか子どもプラン」で児童館の使用状況がありましたが、就園前の子ども的人数もありましたが、実際に利用できるのは限られた地域の人達だけです。データだけでなく、現状を調べて欲しいと思います。

○キッズのホームページで西山体育館のキッズルームを進められましたが、以前、夏に行きましたが、クーラーもついてなく、蒸し風呂の様で子どもも私も汗だくでのぼせてしんどくなって帰ってきました。体育館の人は「基本的に体育館を利用する人の子どもさんたち様です」と言われました。

○NPOの活動で一室借りて1ヶ月に何回か午前中の間、予約なしに自由にいつ来ていつ帰ってもいいという活動をママさんたちがされています。1回目に行った時は、部屋いっぱい子どももママもあふれていて入りきれず帰るママ達もたくさんいました。長岡京市に住んでいるママ達は、本当はこういうのを望んでいると思います。

- 長岡京市は老人や障害者にはやさしいが、子どもをもつ親子にとっては保育料が高いし、児童館はないし、やさしくないと母親友達と話しています。特に、他の市や県から来られた方は、そう感じる様です。
- 私は貧血がよくおこり、真夏の公園での遊びがつかったです。やんちゃな男の子なので外に行きたがり、連れて行ってやりたいですが、体調の悪い時や、雨の時に連れて行く場所がなく家の中でテレビやビデオに頼ってしまいがちでした。そんな時、児童館があればと何度も思いました。そのように思っている母親は少なくないはずです。
- これから2人目も欲しいと思っはいるのですが、つわりの時期に家にこもるのがかわいそうにも思います。これからを担う子どもたちの大切な幼児期を育成できる場所、母親達が安心して集える様な場所の児童館を是非作ってください。

N o 4 (平成17年2月2日受理)

再開発地域の公益棟の中には児童館などはできないのでしょうか。京都市内にある「子供未来館」は非常に内容がよく利用しています。近くに、乳幼児が屋内で遊べ子育て相談が出来る場所を増やして欲しいです。園庭開放も行ってはいますが暑さ寒さの厳しい時は躊躇してしまいます。是非、そのような施設を作ってください。

N o 5 (平成17年2月9日受理)

1月22日付け京都新聞にて意見募集を知り、私たちのクラブ会員にアンケート形式で意見をまとめたものです。子育て真最中の若い母親の思いが、是非、良い形で返ってくるのを大いに期待します。

△すべての家庭が安心して子育てできること

私たちが赤ちゃんや幼児を育てる上で必要としている事は、悩み、不安を話しができる友人や仲間が欲しい、その為のふれあいの場所や時間が欲しいです。情報が簡単に手に入る事も希望します。

△次代の親を育てること

少し先輩のお母さんの話は参考になります。身近な話の講座があったら参加したいと思っています。(その際、自分の子どもを保育して欲しい。)また、自分の特技が生かせる場所があれば役に立ちたいと思っています。(おやつ作り、絵本の読み聞かせ、生け花・・・)

△地域での子育て

- 住んでいる近くにもっと遊び場を作って欲しい。(近くにないところがある)
- 特に雨の日の遊び場が欲しいという意見が圧倒的に多かったです。(移動式の図書館が昔あったと聞いていますが・・・)
- お母さん自身の趣味の時間を持つ事ができるといいと思う。保育付きの映画や趣味の講座など・・・(毎日の子育て24時間子どもと向き合う事にストレスや疲れを感じる事がよくあるようです)

若い人たちは、十分な生活資金がないので(仕事をやめたり、休業中など)これらの希望は、無料であったり格安に、そして、誰でも利用する事ができるのがポイントです。安心して子育てのできる町には次の世代を支える若い人が増えるのではないのでしょうか。

N o 6 (平成17年2月10日受理)

長岡京市では、女性が子どもを生み育てることと、働くことを両立することができにくい。大阪、京都に通じていて通勤には便利だが、子どもを持つとなれば話は別、子ども

を預かってもらえる施設が充実していない（ニーズにあっていない）のと保育料金が高いことなど、子どもを生み育てようと思えない市になっている。

- ① 保育時間が短い。日曜・祝日は保育がない。
- ② 生後2ヶ月から預かってくれる保育園が限られている。（遠い）
- ③ 病時保育がない。
- ④ 保育料が高い。
- ⑤ 保育時間の延長を午前6時30分から午後10時まで全園で実施して欲しい。
大阪通勤のため午前7時30分からの預かりでは子どもを預けられない。また、自分の利用している最寄駅の近くの保育所は、延長保育を行っていない。
- ⑥ 日曜・祝日保育を実施して欲しい。
女性はパート・サービス業につく割合が高いので、日曜・祝日も保育が必要である。
- ⑦ 全保育園で2ヶ月児から預かって欲しい。
法定で休めるのは2ヶ月までである。
- ⑧ 病時保育をして欲しい。
病気になると直ぐに呼び出しがかかる。仕事を中断し、社内で迷惑がかかり煙たがられる。
- ⑨ 保育料をゼロにして欲しい。
保育料が高すぎる。給料は上がらないのに、公共料金が上がる。こんなことでは、子どもを育てる楽しみより、犠牲になるものが増えてしまい、子育てが損に思える。少子化はあたり前であると思う。

N o 7（平成17年2月10日受理）

行動計画策定は、子ども達、また今後子育てをしていく親たちにとって重要なことであり、特に、「次代を担う子どもの権利と利益が最大限尊重され、子どもと親が地域の支援の中で健やかに成長できる子育てが楽しい長岡京を築いていく」という基本理念は是非とも貫いていただきたいと思います。

この理念が現実のものとなるために、今回の行動計画素案を拝見して、感じたことを以下に少しまとめさせていただきました。

●子どもを生み、育てやすい環境づくり

親子の健やかな成長を支える母子保健・医療体制づくりについて

- ・思春期保健対策の充実についての具体的施策が記載されていませんが、商業化した性情報が氾濫している現在、思春期の子ども達への性教育は避けて通れない課題です。

自分の体を、そして他人の体を大切にすることはもっとも基本的な人権の一つであり、それを守るためには身体や性に対する基礎的な学習は不可欠です。今後、保健師等の専門職を学校に派遣し、学習のための時間を確保するなど具体的な施策を是非盛り込んでいただきたい。こういった学習は、思春期のみならず、将来、彼らが親となったとき、児童虐待を防いでいくことにもつながってくると考えられます。

地域で安心・安全に子育てできる環境づくりについて

- ・②の子どもと子育て家庭にとって安心・安全な地域環境づくりにおいて今もっとも急がれるのが防犯対策ではないでしょうか。地域の住民組織との連携は大切ですが、地域のつながりが稀薄になっている今日ではそれも限界があります。子ども自身が自分の身を守るための具体的対応を学習・習得する機会を定期的で開催するなどの対応策も必要と考えます。

子育ての経済的負担の軽減

- ・子育ての経済的負担は乳幼児・学童期よりもむしろその後の中高校生時代の方が大きいというのが親の実感です。奨学金制度等の充実はもちろんですが、学力＝経済力といわれる時代、経済弱者も高等教育が受けられるだけの学力を身につけさせる指導力を学校教育現場で培っていただきたい。

地域で支える子育ての環境づくり

- ・少子化が進み地域社会のつながりが薄れてきた今日、地域ぐるみの子育てを復活させるのは容易なことではないと考えます。市の施策に挙げられている「地域子育て支援センター」の事業の充実も必要なことですが、乳幼児を持つ親の最大のニーズである仲間づくりを自分の住んでいる地域で進めるために、各小学校区に企画力やノウハウを持つ市内のNPOや子育て支援団体の協力を得て、日常的にぶらっと集える児童館のような子育ての拠点をつくることも検討していただきたい。こういった場所が地域に一つあれば、子育ての情報提供の場、親の学習の場になることはもちろん、学童期の子ども達の放課後における居場所、交流の場、体験学習の場としても有効であり、現在、社会的問題となりつつあるひきこもりなどを未然に予防する場ともなり得ます。今回の長岡京市次世代育成支援行動計画の中で、児童館機能の充実事業は現状も目標指標が記されていませんが、この計画の基本理念を生きたものにしていくには、この事業にこそ力をいれるべきではないかと考えます。

NO8（平成17年2月10日受理）

1. 保育所について

駅型保育所の設置が進められていますが、定員40名というのは、すくなくすぎるのではないのでしょうか。既存の開田保育所・新田保育所は、駅から近く、便利ですし、ここをもっと整備（2階・3階建てにする）することが、必要ではないのでしょうか。

2. 小・中学生が集える場をもっと作って欲しい

放課後、家か塾しか行くところが無いというのが、現状ではないのでしょうか。小耳にはさんだのですが、桂方面には、子ども達が自主的に管理しているスケボーの施設があるとか。遊びの中で、自己責任を体験させることも大切なのではないのでしょうか。

3. 子育て支援センターの増設

今回の計画には入っていませんが、ニーズはどんどん増えています。希望者が多い為、多くの人を参加させてあげたいという配慮から、たくさんの親子を取るため、センターの部屋は満杯。ほっとする場・相談をする場としての機能を失いかけているのが現状です。

4. 児童館について

現在は、6小校区中心だと思いますが、長岡京市全体が使用できるようにされるのでしょうか。

5. 児童の安全について

小学校では、児童に防犯ベルを持たせておられますが、どんな音がするのか。地域の人達（自治会の役員・民生児童委員等）に知ってもらえるようもっとPRしたほうが良いのではないのでしょうか。

6. 地域文庫の活用（添付資料参照）

長岡京市には、「長岡京市文庫連絡会」があり、現在8文庫（実質活動しているのは5文庫）本を通じて、親子との関わりを持っています。図書館から本の貸し出しも受けています。子育てサークルと同様、紹介されても良いのではと思います。

7. 不登校児について

現在、一部の子が、アゼリアに通っていますが、施設は狭く、ますます肩身の狭い思いをしているのではないのでしょうか。特別な子どもではなく、だれでも不登校児や型にははまらない子（学校の集団の中では、面倒が見られない子）が、市民権を得て、堂々と通える場とそのような子を偏見の目で見ないような啓発活動が必要ではないかと思えます。

No9（平成17年2月10日受理）

行動計画の国が示す基本理念は「父母その他の保護者が子育てについて第一義的責任を有するという基本認識の下に、家庭その他の場において、子育ての意義について理解が深められ、かつ、子育てに伴う喜びが実感されるように配慮しなければならない」と明記されています。

これは、父母、その他の保護者が手塩にかけた子育てをすることで乳幼児の情緒的安定を得る動物の自然な育児をしようとするものと解釈します。乳児は卒乳（自ら乳離れすること）することで情緒的安定を得ると言われ、アメリカでは最低二歳までは母乳を授乳させる運動があるそうですが、現状（日本）は断乳（親の都合で離乳させること）により、一年程で職場復帰するといったケースが増えているのではないのでしょうか。少子化が進行する中、待機児童が増えるといった現象が如実に現れていると思われまます。このような日本の育児の現状は、行動計画の基本理念に反してしまっていると思われまます。支援施策は、スウェーデンの諸施策のように、子育て中の親を夕方4時までには子どもの元に戻すことや育児休業の補償を保険制度を充実させてそれにあてるなど、母親（それにかわる保護者）を育児に携わる時間の確保と支援する等といった支援策を考えることが長岡京で生れた子ども達に郷土愛と人間らしさという愛情が育めることができると信じるのです。

第1章 計画の概要

○ 「計画推進にあたっての基本的視点（案）」3ページ

「子育て」支援策の文中「必要に応じて適切なサービスを利用する・・・」あるが、必要が要求になっていないか。その勝手と思える要求に応じているのがサービス・・・とならないことを望みます。過剰サービスは親子や家族の絆を結ぶ機会を奪ってしまうことになりまます。

○ [2] 子育てと仕事を両立できる環境づくり 4ページ

「子育てと仕事の両立支援・・・保育所や放課後児童対策などのサービスの充実と質の向上を図る・・・」過剰サービスは「過ぎたるは及ばざるがごとし」である。本年4月、阪急桂坂口駅近くに保育園が開園されるそうですが、かえって待機児童数が増え、潜在需用者を掘り起こしたと言えます。国民、市民の血の涙のような税金は、家族愛という人間の愛を芽生えさすチャンスを奪うことに使ってもらいたくない。

○ [3] 地域で支える子育ての環境づくり 5ページ

「・・・親子の絆を深める体験・交流活動機会の提供の充実・・・」親子の絆は、提供されるものではなく、親子で育てていくものです。親が手塩にかけての育児が「愛しめる」という感情を育む芽生えを得まます。育児に専念できる時間と経済面の

支援があって親（母性）が安定と自身を持って育児ができると思います。その中で、親子の絆が育まれます。

○ [4] 次代を担う子どもが健やかに育つ環境づくり 5 ページ

「地域社会の一構成員としての学校の位置付けと子どもの主体的、自立的に行動できる子どもの育成が安全な中で育まれる」とあるが、3歳からの幼稚園、そして、小学校、中学校、高等学校等といった学校が地域と密接に協力関係を結べると思えるが、それぞれの学校が平常心で正しい協力関係が結べる環境でないように思える。集団生活、集団教育の場が学校ではあるが、不自然な集団は管理されなければパニック状態を起し、その管理も権力的管理に頼らざるを得ない。効率を重視した日本の学校環境では子どもの個性を重視することは不可能である。何百人もの幼児が集まる幼稚園は世界でも希と言える。不自然な大集団は子どもの個性に相反し、主体性を育むことができ難いし、また、自立的といったセルフコントロールは管理という他から規制されてしまうと、自らを規制する機会を得られないままに成人する。指示待人間は、その結果と思える。即ち善なるものを求める姿が自立となると思われるが、善は悪があってはじめて善となる。何故なら善も悪も各人が感情として育む、相対的なものであり、管理という名のもとに善なるもののみ与えようとする自ら判断する対称となるものがないない為、善悪感が構築されない。

幼児期自己中心な3歳児が自己のみ出している周囲の仲間が互いに快・不快の感情を發揮しながら仲間から興味を与えられ、刺激を与えられ、求めたり、反発したりしながら、他人の存在を知る。他人に相対する自己の確立は、この他人の存在を知ることであり、この時期から社会性の芽生え期となる。また、この社会が存在しなければ自律は存在しない。

第2章 子どもと子育て家庭を取り巻く環境

○ [7] 遊び環境の状況

① 児童館の利用状況 21 ページ

本市の児童館は北開田の一館のみで他地域からは利用しにくいにもかかわらず各地域にあり、市民誰もが利用できるかに思わせる①の項目は記載になじまないのではないか。

② 公園の状況

総合・地区・近隣公園は各1であるなら固有名称を[]書きしてもらいたい。また、その利用の現状がどうなのかもわからない。乳幼児及び児童といった子どもが使い難いなどの問題点があるのではないだろうか。

○ [8] 地域子育て支援センター事業の状況 22 ページ

昭和54年兄弟姉妹や近所に幼児が少なくなり、子を求めて公園を渡り歩く母子の様子を伺って幼稚園を開放したのが「むらさき幼稚園2歳児母と子のプレイルーム」であり、26年間子育て支援してきた。民間である為受益者負担（実費の一部であるが）であるが1グループ5～6人の幼児とその母親が自然な姿を維持した形態であり、秦の支援を模索しているにもかかわらず、厚生労働省が「エンゼルプラン」を打出したとって民間の草の根運動とも言える既存の活動を支援することなく「エンゼル」と「たんぼぼ」を開設されたのか。しかも無償で……。また、1グループ数十人とは如何か。効率で子育てをされるのか。その真意を伺いたい。

第3章 次世代育成支援に向けた今後の課題

1. 地域ぐるみで支えあい、助け合う子育て 34 ページ

「働く女性にとって仕事と子育ての両立は大きな課題として就労形態や就労時間の多様なニーズに対応できるサービス内容の充実を図る」云々とあるが、これは過剰サービスになりやすいのではないか。「子どもを生み、育てやすい環

境づくり」に努力（支援）できないことになってしまうのではと危惧される。子と親が一時間でも永く生活を作り出せることへの支援、即ち、就労形態、労働時間改善の支援が必要だと思える。

2. 次代の親を育み 35ページ

「親から子へと子育て知識を継続する子どもとのふれあいを通じて親性を育てるといった環境の減少をもたらす恐れがある・・・」と危惧しているにもかかわらず、その子どものふれあいのチャンスを失うことを支援していると思えない。

3. 子育てと仕事が両立できる職場環境 36ページ

「子どもを生み、育てやすい環境づくりのためには、育児休業制度の推進やワークシェアリングなど新しい就労形態を導入し、これまでの働き方を見直し、働く男女がともに子育てと仕事が両立できるように事業主の理解と協力が求められます。」とあるが具体化する為には理解と協力を求めるだけでなく、就労時間短縮への補償制度などの支援が必要ではないか。

第4章 施策の展開

施策体系

1. 子どもを生み、育てやすい環境づくり 38、40ページ

(1) 母子保健・医療体制づくり これらの支援や対策が充実すると自ら安全を求めるといった安全意識の自立を阻害することに注意されたい。

(2) 自立を支える環境づくり 施策の充実と自立は相反関係であるため、支援のし過ぎに充分配慮されたい。

2. 子育てと仕事を両立できる環境づくり 38、52ページ

(1) 多様なニーズに対応した保育サービスの推進 依頼心を促す結果、自立心が育めないといった事にならない配慮を要する。

(2) 男女が共に子育てと仕事を両立しやすい労働環境の推進で施策は、働きかけは就労先の事業主に篤志家になる事を望んでいるようで、施策としては具体的な支援を要するのではないか。

(3) 男女が共同し取り組む子育ての推進 乳幼児は母性を求めている。母性を育む支援が求められているのである。

3. 地域で支える子育ての環境づくり 39、58ページ

(1) 子育てに関する相談、援助体制の充実 私立幼稚園の立場から言えば子育て相談などの支援施策は担任を持たない園長が担当することとなり過労となる。延長保育などになると教諭の負担となる。このように保護者の子育て支援は、携わる教職員の過労となるため矛盾が生じる。せめて書類（申請や報告書類）の簡素化を図られたい。

4. 次代を担う子どもが健やかに育つ環境づくり 39、64ページ

(1) 子どもの人権尊重の視点に立つ環境づくり 生命、人権を大切にすること教育・保育は親の生活態度にある。飽食や使い捨てをせず生命体や物体を大切に愛しむ生活態度を子どもが素敵と思って真似る（学ぶ）のである。私たち大人が真似る手本、見本になることを支援すべきではないか。

(2) 子どもの個性と能力を伸ばす教育の充実 集団教育の弊害と思える管理教育からの脱皮に努めないと思います。

(3) 子どもの社会性を育む遊び、交流の場の充実 社会性が他から与えるものではなく自分達の生活の場（学校生活）で創り出すものである。乳幼児期から教えたり、指導することに陥ると遊ばない子どもにしてしまう。「遊んでー」とか「やってー」と依頼する子どもにしてしまい遊ばない子どもにしてしまう。

5. 今後5年間の目標事業量・目標指標 75～77ページ

保育サービスの事業量・目標値は厚生労働省が考える社会のニーズに応える目標指標であり、幼児の立場から考えたものでないように思われる。日本の社会は資本主義社会であり、その主権は民衆にある為、民主主義社会とも言える資本家が求める人材育成が日本社会の求める人材である事。また、資本家の下で働く大半の親が求める子どもの将来像も資本主義社会の求める人材となる。グローバルといわれる効率を最優先する社会では目標を数値で表わす事となる。子どもの教育は教育基本法の教育の目的が人格の形成を目指すこととしている。人格の形成を数値で表わそうとするとところに人間らしい人間愛と言われて豊かな感情を育む事にはなじみ難い無理を生じさせるのでないか。子どもの教育は人格の形成の芽生期であり、子ども自身の責任で学ぶことを選べる高等教育以上になって始めて社会のニーズに応える教育手段があっても良いのであり芽生期は親子の絆、家族の絆を結び、人格の形成を自分で親や教師、仲間から興味として真似び構築するものである。目標値といった他者から与えられるものでは断じてない。教育も医療も福祉もデーケアと言われるように家族や社会へ自立する事が大きな目標であるべきと考える。

結び

総務省は少子化対策として10年前からアメリカで進められている移民という方策をとろうとしている。日本は大和あるいは日本民族と言われる単一民族であり、アメリカとは基本的に異なり、この政策を大々的に取り入れられると日本民族の滅亡にもなりかねない。浪花節と言われる日本の人情は農耕民族の群れることで種を守ってきたことに端を発する。情は扶助の精神とも言え民主主義国家であるアメリカの個人主義と同じ民主主義の日本の扶助の精神とは相反するものである。家族の為、長岡京といった地域（故郷）の為、日本の為・・・にと生命を懸けて守り続けられた日本民族を滅ぼすことはできない。親が子に対する生きるポリシーを伝えなければ少子高齢化の進む日本に誰が止まるでしょうか。日本の将来に夢と希望を持ってないことでは何の施策でしょうか。人の情（こころ）を育む施策こそ長岡京に求められていると思います。このような施策には何をさておいてもお手伝いさせて欲しいというのが市民としての私の思いです。

No10（平成17年2月13日受理）

子どもがいるので、とても興味深く読ませていただきました。

長岡京市は、児童館がないのがとても残念です。雨の日は、特に困っています。物騒な世の中になってきたので、公園もあまり以前のように行く気になれないですし・・・他の親子さんとは、サークルに属しないと、なかなか交流がもてないので児童館があれば・・・と、いつも思っています。それと、乳幼児医療費の助成についてですが、隣の大山崎町は、小学校入学前まで延長されると聞きました。長岡京市は3歳までと格差が大きすぎると思っています。是非、検討してください。